

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

屋久島町立宮浦小学校 教諭 稲留 愛

1. 単元名 「屋久島の未来のために」

単元を貫く探究課題 「屋久島の未来とわたし」

2. 単元目標

- 屋久島の抱える問題について取り組む大人との関わりを通して、持続可能な社会を作ることの必要性について理解することができる。 (知識・技能)
- 屋久島の現状からよさや課題を見だし、屋久島のよりよい未来に向かって自分たちにできることを考えたり、発信したりすることができる。 (思考・判断・表現)
- 「持続可能」な視点を持ち、課題解決に向けて進んで取り組もうとすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「屋久島の抱える問題について取り組む大人との出会い」、「屋久島の課題に直面する体験活動」、「校外での取組発表や発信」を教材として取り上げる。

ESD アドバイザーの方を招き、屋久島の抱える問題について対話することで、屋久島の様々な環境問題について多様な視点で捉えることができる。また、それらの課題について取り組む大人との関わりを通して、地域の実態を正確に把握し、これからの活動に具体性をもつことが期待できる。

さらに、屋久島高校の環境フェスタやNPO 法人主催の「屋久島と地球の未来会議」で発信することで、来場される方々に合わせたプレゼンテーションの用意をする等の相手意識をもって活動できるよさがある。さらに、自分達の取組や提案を拡散したり、ESD に造詣の深い方々から意見をもらったりして、より確かな知識を主体的に得ようとするとともに、人とのつながりの心地よさや関係を深めるコミュニケーションのスキルも図ることが期待できる。

(2) 児童観

児童は、これまでの総合的な学習の時間の様々な体験活動を通して、地域の人々の暮らしや伝統・文化、世界遺産に登録された屋久島の自然や歴史について学習してきた。修学旅行では、鹿児島の人々から、様々な問題に対処する問題解決能力や実行力について学び、自己の生活に生かしたり、島外から見た屋久島について考えを深めたりする姿が見られる。未来の屋久島や自分の姿を想像し、よりよくするために何ができるのか、多面的に探究的な学習を深められるようにしたい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず、国語科の単元「環境問題について意見文を書こう」で、屋久島の抱える環境問題について考え、意見をまとめる活動を行う。このことを通して、資源の有限性を知り、環境保全や持続可能な社会を目指すことの大切さに気付かせたい。また、講師の方から世界や屋久島で起こっている環境問題について講話してもらうことで、課題を自分事として捉えさせ、よりよい屋久島の未来を想像し、行動しようとする意欲をもたせたい。

次に、「屋久島の未来のために」何ができるのか、それぞれに追究したい探究課題を設定して学習計画を立て、探究的な学習を進めていく。児童が主体的に学習を進められるように、情報共有や協働的な学びが自由に行える場を設定する。また、体験活動に取り組む児童には、活動することが目的化

しないように、「何を明確にするために行うのか」等の問いかけをして意識付ける。さらに、屋久島環境文化研修センターの職員（ESD アドバイザー）や地域の方々に、児童の提案や取組の相談に応じてもらうアドバイザーになってもらい、授業を参観しながら児童の状況に応じた専門知識や意見交流を行い、新たな発見や課題を見付けることができるようにしたい。

そして、学んだことや取り組んだことをまとめたり発信したりする場を設定し、様々な人の考えや意見が交流できるようにする。また、聞く視点を与えることで、知識を再構築して考えをもったり、自分の探究課題の課題解決のヒントや学びを得たりすることができるようにする。さらに、学習記録を見返すことで、児童が自分の取組や考えの変容を振り返り、学習成果や自分の成長を実感できるようにして、新たな探究的な学習につなげていきたい。

(4) ESDとの関連

○ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・ 相互性… 人口が増えると経済成長が期待できるが、環境破壊の恐れがあること。
- ・ 有限性… 資源は限りがあり、使い捨てが当たり前になると資源が減り続けてしまうこと。
- ・ 責任性… 世界遺産屋久島の姿を維持するには、私たちの一人一人の行動が大切であること。

○ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・ 未来像を予測して計画を立てる力
 - … 持続可能な屋久島の姿を想像し、何をすることが大切か考える。
- ・ 多面的・総合的に考える力
 - … 屋久島に対する様々な考えに触れ、自分なりの考えをもつことができる。

○ この学習を通して育てたい ESD の価値観

- ・ 自然環境や生態系の保全を重視する。
 - … 自然と共生し、環境や生態系を保全していくためには、どのような取組が行われてきたのかわかり、自分たちにできることを考え、引き継いでいこうとすることができる。
- ・ 幸福感に敏感になる。
 - … 便利さや快適さの追求だけでは世代を超えた幸福感につながらないことに気付き、豊かさとは何かを追究することができる。

○ 達成が期待される SDGs

- ・ 1 1（まちづくり）、1 2（生産と消費）、1 3（気候変動）、1 4（海洋資源）、1 5（陸上資源）

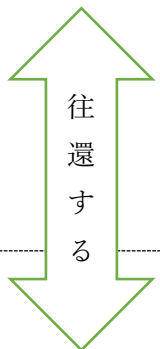
4. 単元の評価規準

知識及び技能	① 持続可能な社会の必要性について理解することができる。 ② 屋久島の未来を多面的に捉えて想像し、地域や自己の将来について課題を見つけることができる。
思考力、判断力、表現力等	① 専門機関や地域の方の話を聞いたり、インターネットや本で必要な情報を収集したりして、相違点や共通点をまとめることができる。 ② 課題解決に向けて、観点に合わせて情報を整理し、考えることができる。 ③ まとめたことや考えたことを自分なりの方法で分かりやすく表現することができる。

主体的に 学習に 取り組む 態度	① 課題解決に向け、郷土や地域、自分のよさに気づき、探究活動に進んで取り組もうとすることができる。
	② 自分と違う意見や考えのよさを生かしながら協働して学び合おうとすることができる。
	③ 地域の一員や自己の生き方と結び付けて考え、自分にできることを実践することができる。

5 単元の指導計画 (全28時間)

学習過程 (時間)	活動内容	学習への支援	評価
1 屋久島の抱える問題について取り組む大人との出会いを通して、持続可能な屋久島の未来を想像しよう。(4)	<ul style="list-style-type: none"> 講師の話から、持続可能な社会を目指すことの必要性について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ESD アドバイザーを活用することで、資源の使い方による地球や自分たちへの暮らしへの影響を考えさせ、課題意識をもたせる。 「未来の屋久島をどのようにしていきたいか」考えを記録しておく (PDCA 学習シート)。 	知①
	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会、屋久島のよりよい未来にするために自分たちに何ができるか探究学習の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 未来の屋久島がどうなっていてほしいかを全体で共有し、どのように探究的な学習を進めていくか話し合いをすることで、一人一人が追究したい探究課題を設定できるようにする。 	知②
2 屋久島の現状と考えられる未来を探り、持続可能な社会、よりよい屋久島の未来に向けて自分ができることを見つけよう。(20) ・調べる ・(体験する)	<ul style="list-style-type: none"> 体験したことや学習したことを想起し、専門機関や地域の人との関わりをもちながら調べ学習を行い、実態を明らかにする。 インターネットや本、インタビュー等を通して情報を収集する。 実際にごみ拾いを行う等の体験活動をする。 屋久島町や他所の取組、これまでの学習経験を参考にして自分たちが発信できることを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間での学習の仕方の説明を行い、探究的な学習のイメージをもたせる。また、探究カードを毎時間活用してめあてを立てることで、児童自身が目的を明確にして探究的な学習を進められるようにする。 めあてや振り返り、成果物の共有、学習形態 (個人・ペア・グループ・全体) や学習方法 (活用したい人・物・事・場) を選択、発表 (形成的評価) の場を設定することで、児童が相互に情報共有したり協働的な学びが行えたりできるようにする。 …共有の仕方 (黒板・ロイロノート・掲示) …活用できる学習材の準備 人 (ESD アドバイザー、お魚マイスター、登山ガイド、役場職員、NPO 法人うお泊、環境省職員 等) 物 (NHK 動画・イマジン屋久島 HP・屋久島類似の例 等) 事 (屋久島高校環境フェスタ、地球と屋久島の未来会議、羅臼町や島内 ESD ウィークの交流学習 等) 場 (教室・図書室・多目的室・課外 等) 	思① ② 主①
	<ul style="list-style-type: none"> 相手に分かりやすく伝えたり、今の自分たちにできることについて根拠を明らかにしながら伝えたりするためにまとめ・表現の方法や手段を選択する。 今の自分たちにできることについて発表し合い、いろいろな考えや取組について共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 中間発表会を予定することで、発表に向けてこれまでに集めた情報や体験から分かったことをまとめ、相違点や共通点を整理することができるようにする。 発表の方法や手段を示し、選択させることで、児童が自分の発表を相手によりよく伝えるために一番相応しいものを考えることができるようにする。 多くの人と情報共有することができるようにするために、ワールドカフェ方式で発表したり、発表に使用する資料等を予め共有したりする。 	思③
3 屋久島の未来のために続けたい取組を発信しよう。(2) (発表会)	<ul style="list-style-type: none"> 屋久島の未来のために続けたい取組を発信 (異学年交流発表や参観発表、町イベント) する。 	<ul style="list-style-type: none"> 見る視点を与えて発表に参加することで、相手の考えや取組内容、伝え方を自分と比較して捉えることができるようにする。 	主②
4 学習のまとめをしよう。(2)	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことや取り組んだことを振り返り、「屋久島の未来とわたし」に結び付けてまとめ、次の探究課題につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を貫く探究課題「屋久島の未来とわたし」を意識させることで、次の探究課題につなげられるようにする。 PDCA 学習シートを見返すことで、児童が自分の取組や考えの変容を振り返り、学習成果や自分の成長を実感できるようにする。 	主③



まとめる
(中間発表会)

6 指導の実際

(1) 屋久島型 ESD の充実「ESD アドバイザー」の利活用

屋久島町教育委員会は、ESD アドバイザーの有効活用を行うことで、「屋久島型 ESD」を推進している。この ESD アドバイザーは、屋久島町教育委員会が委嘱している ESD に造詣の深い専門家であり、公益財団法人屋久島環境文化財団の屋久島環境文化研修センターの職員や、特定非営利活動法人 HUB & LABO Yakushima などが、ESD アドバイザーとして数年本校に協力してくださっている。彼らは島内 11 の小中学校、1 つの高等学校に派遣され、教職員の支援を行うとともに、学習者の伴走を行っている。

現状、学校の教育体制が 3～5 年ごとに教職員が入れ替わる中、指導内容や方向性、在り方をいかに引き継ぐかという課題が生じている。また、屋久島という立地、起伏の激しい地形や日々変化する天候に影響され、屋久島を学ばせるうえでの教材研究や教材開発が困難であるという現状に対し、その課題解決に大いに寄与してくださっている。

「ESD アドバイザー」の具体的な実践として、第 6 学年の事前学習において ESD アドバイザーである通称「屋久島のやっくん」他数名が令和 5 年度 1 月現在、通算 5 回来校してくださっている。

夏季休業中の職員研修では、令和 6 年度の総合的な学習の時間のカリキュラム編成のワークショップ及び指導助言も提供してくださった。これにより、令和 6 年度の学習計画においては、これまでにない屋久島の里歩き、屋久島の海、屋久島の山に着目した活動範囲の拡充が可能となっている。このように、ESD アドバイザーの協力を得ることで、屋久島型 ESD の理念に基づいた具体的な教育実践が進展し、学習内容にも指導・助言を頂いている。

(2) 総合的な学習の時間「屋久島の未来のために」の授業実践

ア 本授業の重要性

この授業の重要性は、総合的な学習の時間を通じて、児童が探究的な学びや体験活動を経て、屋久島の課題や取り組みに対して多面的で深い理解を得ることが期待されることにある。この理解が形成されれば、児童は単なる受動的な知識の受け手ではなく、主体的な学習者としての役割を自覚し、地域社会への貢献についても考えることができるようになる。

ESD の関連からも、この授業を通じて児童が自身の役割や地域社会への貢献について考え、自覚することは非常に重要である。地域への深い理解と関与は、社会的な課題に対処するための基盤となるからである。

次に、「屋久島の未来のために」という単元名で示すように、この授業は持続可能な社会を築くための知識や、技能を身に付けることを目指している。児童は屋久島の抱える問題に取り組む中で、大人との関わりを通して持続可能な社会の必要性を理解し、自分たちにできることは何であるかを考える技能を培うことが期待される。

そして、授業の目標として挙げられた知識や技能、思考・判断・表現力、主体的な学習態度は、将来の屋久島を支える人財、あるいは世界の未来を担う存在としての役割を果たすために不可欠な要素である。「持続可能」な視点を持ち、課題解決に向けて主体的に学習に取り組むことが、社会的なリーダーシップや協力の精神を育む面でも非常に重要である。

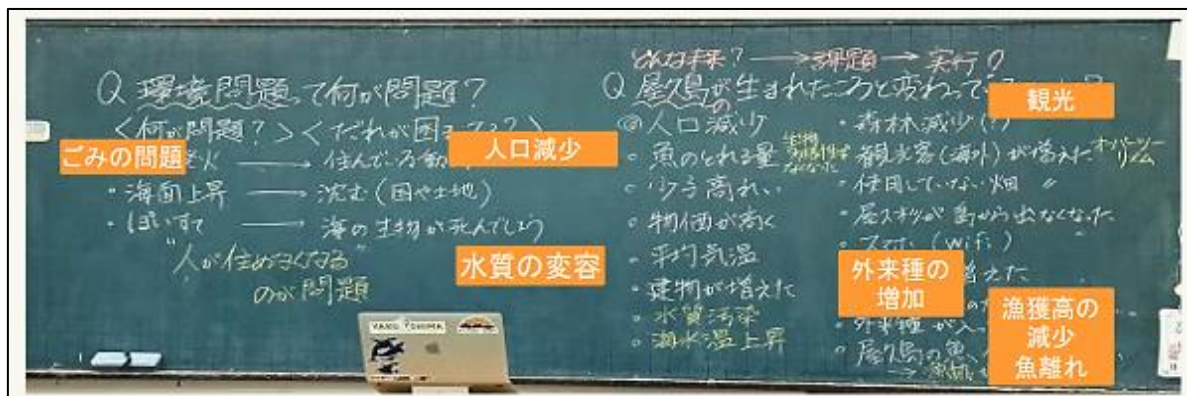
総合的な学習の時間を通じて屋久島の現状を理解し、持続可能な未来に向けたアクションを起こすことができる児童を育てるこの授業は、地域社会への積極的な貢献や社会的な課題に対処するための能力を養成する観点から非常に重要なものと言える。

イ 課題の明確化 (ESD アドバイザーの利活用)

課題意識の明確化のために、ESD アドバイザーの講話、資料分析、およびブレインストーミングを行った。

ESD アドバイザーは「環境問題って何が問題?」「屋久島の過去と現在での変容は?」と問い掛けることで、児童の多様な意見を引き出してくださった。一斉指導のみならず、ブレインストーミングの手法を用いて児童同士の学び合いを推進するとともに、人口や漁獲量などの統計資料や、森林や海の変化が感じられる写真を提示していただくことで、児童の解決課題が明確なものとなっていった。

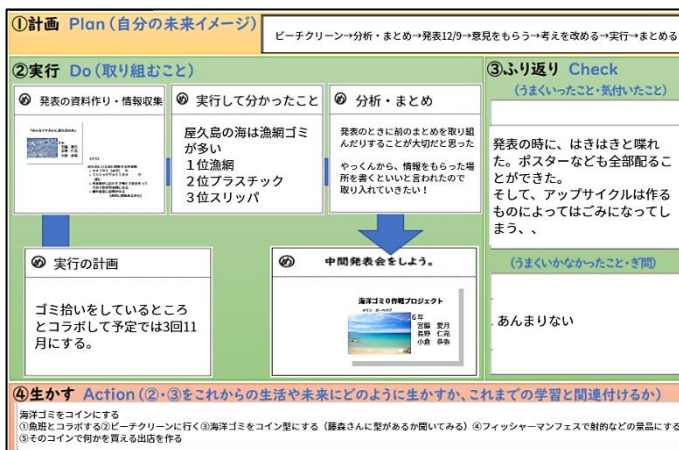
このプロセスにより、当初児童だけで考えた「ごみの問題」以外にも「人口減少」、「水質の変容」、「外来種の増加」、「観光(オーバーツーリズム)」、「漁獲高の減少と魚離れ」など、児童の更なる課題意識を引き出すことができた(写真1)。



【写真1 「ESD アドバイザーからの講話、資料分析、ブレインストーミング」】

ウ PDCA 学習シートの活用

総合的な学習の時間に導入した「PDCA 学習シート」では、児童がそれぞれ「どんな屋久島の未来にしたいか」を探究課題として立て、そのためにどのようなアクションを起こすかの計画を策定した。具体的な事例(写真2)として、ある児童は「海洋ゴミ0」を目指すプロジェクトを立ち上げた。計画段階では、ビーチクリーンを行っている団体に参加し、分別の方法を学ぶことを計画。また、漂着ゴミの種類を分析し、海洋ゴミ0作戦を成功させるための具体的なアクションを起こすためのアイデアを策定している。



この「PDCA 学習シート」を通じて、児童は自身の目標に向けた PDCA サイクルを意識的に構築し、具体的な計画を策定することで、探究課題の解決に向けた実践的な取り組みを進めることができるようになった。

エ PDCA 学習シートを基にした持続可能な活動

児童は、PDCA 学習シートで立てた具体的な計画を基に活動を進め、途中段階で ESD アドバイザーを招聘し、ワークショップ後に自分たちが「屋久島の未来のために」どの様な計画を立て、どのように活動を行っているかをプレゼンテーション【写真2 「PDCA 学習シート」の活用例】

このプレゼンテーションにおいて、ESD アドバイザーからは、調査の仕方や体験活動の助言、そして課題に取り組んでいる身近な大人の紹介があった。このことで、地域の実態をより正確に把握し、活動の見通しをもつことができた。

児童は、PDCA 学習シートを通じて修正した計画を基に、更なる活動を実施し、実施後の取組をプレゼンテーションすることで、課題解決の実感とともに活動を持続可能なものとして取り組んだと考える。



【写真3 「PDCA 学習シート」を基に、計画や活動をプレゼンテーションする様子】

カ 関係機関との連携強化

関係機関や地域の方々とのつながりを通じた直接体験、助言は、児童の持続可能な活動において極めて重要である。児童の打ち立てた「ごみの問題」以外にも「人口減少」、「水質の変容」、「外来種の増加」、「観光（オーバーツーリズム）」、「漁獲高の減少と魚離れ」といった6つの探究課題に基づいて、6つの関係機関との連携を強化し、専門的な機関から直接体験や助言を得ることができた（写真4）。



【写真4 関係機関や地域の方々とのつながりを通じた直接体験の様子】

例えば、「地球と屋久島の未来会議」というイベントでは、NPO 法人が主催し、校内の先生方、保護者、島内外の ESD に造詣の深い方々とのコネクションを築くことができた。

児童は、ワールドカフェ方式で自らの取組を発信し、後半ではミーティングを行い、多くの意見を得ることができた。これにより、地域との連携を通じて専門的な知識や意見を取り入れ、自ら打ち立てた解決課題の解決方法を見いだしたり、新たな気づきを得られたりすることができ、個に応じた学びが展開された（写真5）。



【写真5 児童が「地球と屋久島の未来会議」で発信する様子】

7 成果と課題

(1) 成果

育みたい ESD の資質・能力「未来像を予測して計画を立てる力」及び「多面的・総合的に考える力」は、次のことから概ね達成できたと考える。

○ 深い理解と課題意識の醸成

児童が総合的な学習を通じて、屋久島に関する課題や取り組みに対して多面的な観点を獲得するとともに、一人一人に応じた探究意識を育むことができ、探究課題の設定と探究活動を展開することができた。

○ 地域との密接な連携の醸成

ESD アドバイザー、地域の機関との連携により、地域の実態や専門的な知識を充分に取り入れることができたとともに、児童は未来像を予想しつつ地域に貢献しようとする実践的なアクションを展開することができた。

○ 児童の主体的な行動と自己成長

PDCA 学習シートを通じて自らの目標を設定し、計画の策定と実践をすることで、児童は主体的な行動を発揮することができた。

○ 地域イベントでの発信とフィードバック受容

年間数回にわたる発表会や地域の「地球と屋久島の未来会議」などでの発信とフィードバック受容は、児童の地域貢献への意識やコミュニケーションスキルを向上させ、地域社会での存在感を自覚することができた。また、羅臼町の小学生・中学生・高校生とのリアル交流では、これまでの学習の成果を発表するにとどまらず、羅臼町の発表に対する感想や意見を発信することができた。

(2) 課題

課題は、次の3点である。

○ 関係機関との連携の複雑性

関係機関との連携には事前の打合せや本授業の主旨を理解していただく必要がある。そのために、複数の関係機関との調整を円滑に進める情報共有の在り方やICTの活用について、今後も模索していく必要がある。

○ ステークホルダー（関係機関・保護者）を意識した年間指導計画の策定

児童が休日や祝日に直接体験を行う場合、これが負担となる可能性が有り得る。児童・保護者のスケジュールや疲労を考慮し、学習の質を保ちつつ負担を軽減するため、年間指導計画の策定を精査する必要がある。

○ 総合的な学習の時間のカリキュラム上の系統的な配列

小学校の1年生から2年生までの各教科や、3年生から始まる総合的な学習の時間における幅広い児童の発達段階と、その違いを考慮した計画とアプローチを検討することが必要である。

8 おわりに

総合的な学習の時間の実践を通じて、ESDアプローチに基づく児童の育成において多くの新たな知見が得られた。地域イベントでの発信とフィードバック受容は、地域への貢献意識やコミュニケーションスキルを向上させ、児童が地域社会での存在感を自覚する一助となったと考える。

しかし、関係機関との連携の複雑性や年間指導計画の策定における課題、学年ごとの総合的な学習の時間のカリキュラム上の調整など、今後の克服すべき課題も明らかになった。

今後の方向性として、ESDアプローチを更に展開しつつ、屋久島の人・もの・事を対象とした教材研究の推進、ステークホルダーとの連携をより効果的に進めるICT等を用いた方法の検討を行いつつ、全学年の発達の段階を加味した探究課題の設定について考察を進めていきたい。

今回、屋久島における総合的な学習の実践を通して得た知見が、他地域・学校の総合的な学習の時間の運用にも効力を有効に発揮し、地域社会や教育の発展に寄与することを願っている。

目指す姿 [ESDの資質・能力]

「未来を予測し計画を立てる力、多面的・総合的に考える論理的思考力・コミュニケーション能力、他者と協力する社会参画力」

- ① 屋久島の課題解決に向けて取り組む方々等と関わる活動を通して、持続可能な社会の在り方や自分の生き方について考え、社会の一員として、どのようになりたいか課題を設定し、計画的に追究することができる。
- ② 課題について、専門機関や地域の方と関わりながら必要な情報を収集し、調べる事象を比較したり関係付けたりしながら、相違点や共通点を明確にしてまとめ、相手や目的に応じて、効果的な方法を選択し、表現することができる。
- ③ 他者の職業観や人生観を尊重し合うよさに気づき、自分らしさを生かして、持続可能な島づくりを考えたり、実践したりすることができる。

総合的な学習の時間「屋久島の未来のために」

1 Plan: ESDアドバイザーのサポート
ESDアドバイザーが定期的に来校して下さり、地域の課題に取り組むお手伝いを頂きます。

2 Do: 総合的な学習の時間の授業
「屋久島の未来のために」の授業では、児童が探究的な学びをおととして、屋久島の課題を自ら発見。「PDCA学習シート」を使って自分たちのプロジェクトを計画し、ESDアドバイザーのサポートを受けながら探究課題の解決を目指して実践を重ねていきます。

3 Check: 持続可能な活動と関係機関との連携
途中経過や、自分たちのアイデア、解決途中の悩みをプレゼンし、ESDアドバイザーや地域の方々、関係機関の指導・助言を受けながら、地域の未来、持続可能な社会に向けた活動を進めていきます。具体的な解決策を見出しつつ、ワンチームになって取り組んでいます。

4 Action: 発表と次へのアクション
子どもたちは自分たちの活動と「何を学んだか」を発信し、ESDアドバイザーや地域の方々からのリプライを受けます。子どもたちのプレゼンテーションは、屋久島の現状に対する取組の成果を分かりやすく表現し、一緒に協力して地域をより良くするための一助となるに違いありません！

宮浦小学校の屋久島型ESD
ESD 重点目標
屋久島を持続可能な社会にするために、自然や文化、人々との関わりから「自ら学び、考え、行動、発信する力」を育成する。

6年アップサイクル
6年屋久島と地球の未来会議
6年お魚マイスター
6年種日町との交流
6年登山道整備
6年ビーチクリーン
6年登山ガイド
6年ビーチクリーン

6年屋久島高校での発表
6年種日町の小・中・高生への発表
6年一般の方々に対する発表

QRコード: #pはこちら

関連する教科等

国語「私たちにできること」
(光村図書)
身近な環境問題について考え、校内で取り組めることを提案することができる。

道徳「地球があぶない」
(公文書院)
自然破壊の原因と自然を守るために何ができるのか考え、自分なりの方法で自然環境を大切にできる。

学習参観・町行事
「地球と屋久島の未来会議」
持続可能な屋久島の未来に向かって、取り組んできたことや考えたことを地域や保護者、ESDに造詣の深い方々に発信することができる。

まとめとこれから

この学びを通して「屋久島が好きだ」、「屋久島を誇りに思う」という子どもが増えました。ESDアドバイザーをはじめ多くの地域の方々の御協力に感謝します。これからも、子どもたちが地域の現状に対するアイデアや解決策を発信し、地域社会と連携しながら活動を進めていきたいと考えています！！

